

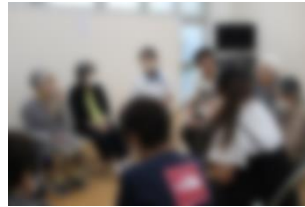
(別紙1)

尼崎市支え合いを育む人づくり支援事業 教育・研究活動事業実績報告書

教育・研究活動名	防災を通じた安全・安心なまちづくりプロジェクト			
申請大学・高校等名	大学及び 高校等名	関西国際大学		
	活動 グループ名	福祉学専攻ゼミプロジェクト	参加学生 等人数	30人
指導責任者名 及び連絡先	学部・学科等 名称	教育学部教育福祉学科福祉学専攻		
	責任者氏名	尾崎慶太(代表)、山本秀 樹、春木裕美	連絡先 電話番号	
	E-mail			
協働する市民活動団 体及び代表者名	団体名	①潮江社会福祉連絡協議会、②竹谷社会福祉連絡協議会、③三和本 通商店街振興組合		
	代表者氏名	①会長 藤原靖彦 ②会長 伴公子 ③組合長 藤本一彦	連絡先 電話番号	
	E-mail			
教育・研究活動 目標	本プロジェクトは、活動地域にある市民活動団体である潮江/竹谷社会福祉連絡協議会、三和本通商店街振興組合などと協働した活動を通して、学生にとってはソーシャルワークの基礎である住民主体の観点や人権感覚を養うこと、地域にとってはつながりづくりに寄与することを目的とする。わが国は地域共生社会を目指しているものの、依然として地域には孤立しがちな住民が多数存在し、様々な事情により支援を受けない/受けられない状況がある。彼らは同時に、災害時の避難行動要支援者になるため、平時からの助け合うつながりづくりや個別の避難行動計画作成などが欠かせない。このような防災という分野横断的なキーワードを取り上げながら、活動地域の地域課題の発見、当事者との交流を通して地域課題を自分事化し、住民と共に解決するプロセスを関連団体と協働して進める。そのなかで多角的・多面的な考え方を獲得し、大学での学びを深化するためのプロジェクトとして展開する。			
活動内容及び 実績、評価	<活動内容および実績> 本プロジェクトは、防災を通じた安全・安心なまちづくりをテーマに、2 年生/3 年生ゼミでそれぞれ潮江地区および竹谷地区での地域活動を行った。 (1)3 年生の地域活動 主な活動は、「防災スマホ教室」と「防災サロン」開催であった。当初は予定していなかった団体「パストラル尼崎(ケア付き高齢者住宅)」と連携することになり、学生が訪問して、スマホの基本操作から災害時に役立つアプリ活用まで、幅広いスマホ教室を複数回開催した。後期は、スマホ教室での経験を踏まえつつ、文献等での学習をもとに、学生企画の防災サロンを小田南生涯学習プラザで開催した。1 回目は参加がなかったため問題点を検証し、2 回目の開催に向けて様々な媒体を通じた集客に取り組んだ。その結果、2 回目は多くの来場者があった。これら活動の成果を、1 月に学内で、2 月に地域向けイベントにて活動報告を行った。			
		  		

(2)2年生の地域活動

2年生は、潮江地区と竹谷地区で活動する2チームに分かれ、春学期は同地区で開催されている百歳体操とサロン活動に参加した。そこに参加されている高齢者と交流し、地域での暮らしの様子などを聞く機会を得た。秋学期は、個別訪問の見守り活動への同行と高齢者へのインタビュー、地域行事への参加(竹谷地区防災訓練、潮江地区献血)を実施した。広く地域活動に触れつつ、個別のニーズを理解するために、個別訪問やインタビューを通して、地域生活における暮らしの実際や困りごとなどを聞くことができた。1年間の活動成果をまとめ、1月に学内で関係者に向けた活動報告を実施した。



<評価>

①学生等

2年生は、地域活動へ赴く際の動機づけが十分でなく、活動前段階ではモチベーションが上がらない学生もいた。それが活動後には、「見守り活動を通じて、地域の方とお話することに慣れることができた。また地域のことをもっと知ってみたいという気持ちになった。」「今まで高齢者の方とあまりお話したことがなく、活動前は緊張していたが、見守り活動の中で優しく接していただいて印象が変わった。」など、に次の活動につながる意欲的な姿勢に変化していた。

3年生は、学生自らプログラムを企画実行することに挑戦した。防災スマホ教室では、高齢者と関わりながら、実際のニーズに対応するかたちで、活動内容を調整していった。防災サロンは、一から企画するという初めての経験で、つまずきながらもゼミ生全員で協力し、サロン実施を成功させることにつながった。報告会では、「報告会を通じて、今までの活動における反省点や新しい気づきを得ることができた。」「今までやってきた活動の成果を、ステークホルダーの方の前で発表するのは初めて。緊張もしたが自分たちにとって大きく成長するいい機会になった。」と語るなど、学生の学びが充実していたものであったといえる。

②市民活動団体の活動者

潮江地区は3年目の関わりであり、関係性が深まってきている。とりわけ、学生との交流が良かったという評価に留まらず、学生の学びにつながるような活動への提案もなされている関係性になっている。例えば、学生自身の個別目標を明確化すること、定期的な活動を継続することで地域の実情が見えてくること、2年生から3年生への引継ぎをより良くすることにより活動が充実することなど、地域で学生を育てるという関係性にまで発展してきている様子がうかがえる。そういった蓄積は、他の関連団体へも波及効果が期待できる。

③指導教員

学生の学びの状況や連携する市民活動団体との関係性を概観すると、プログラムが充実していることが伺える。一方で、学生が地域で活動し、学びを深め、地域へ還元するための課題も明確になってきていることがいえる。すなわち、学生の地域への関心をもたせること、地域活動で得た気づきをさらに自分事化させ活動をさらに一歩進めるための仕組みを整えることである。他方、学生の地域活動に関する情報発信が十分でない実情もある。多方面にわたり学生の活動を受け入れていただいているが、情報発信が限定的なものになってしまっているため、より幅広い市民へと対象をひろげ、本プロジェクトが安全安心なまちづくりに寄与できる仕掛けを検討していくことが肝要である。

※ 報告書の内容及び掲載写真は、市報、HP等の市の発行する媒体への掲載される場合がありますので、事前に学生等の同意を得た上で、提出をお願いします。